

# 安全対策班 活動報告

## 《2019年度》

新潟市民病院

阿部 崇

県立加茂病院

見邊 典子

県立新発田病院

高橋 一哲

魚沼基幹病院

林 美佳子

木戸病院

鈴木 克弥

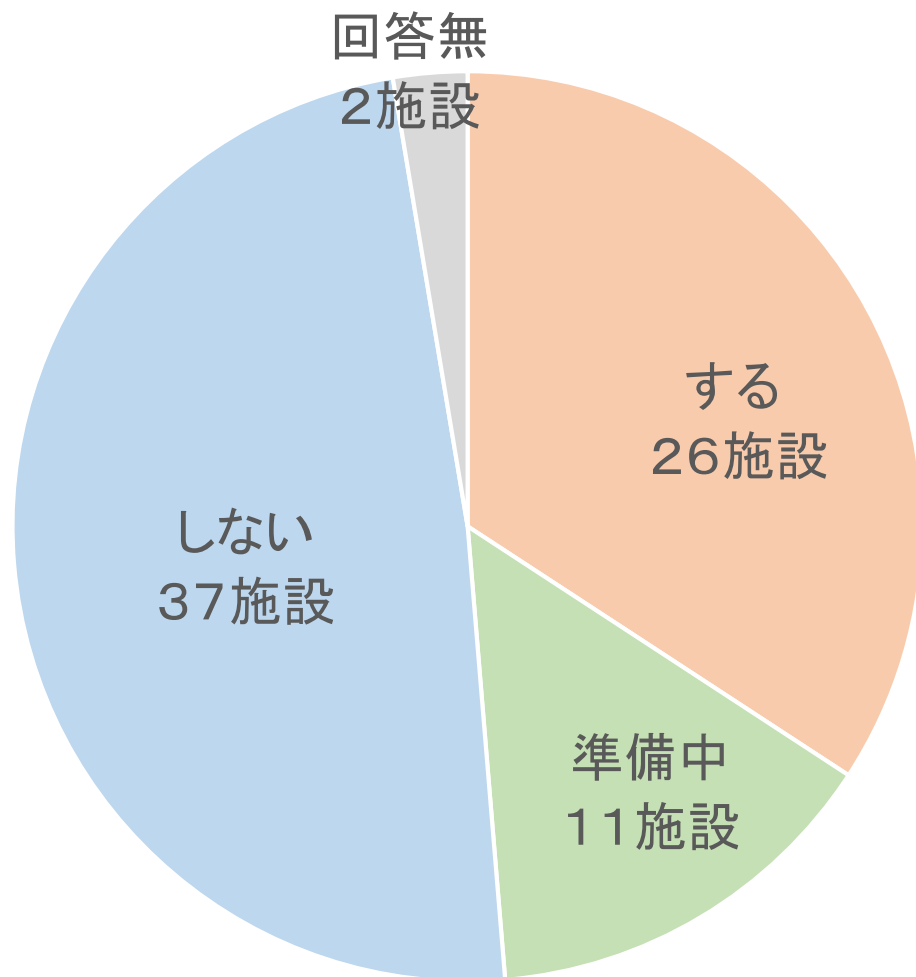
# 今年度の活動

- 新潟県における赤血球不規則抗体カードの現状をアンケートにより調査した
- 安全な輸血療法に役立つツールとして更なる普及を図る

# 調査対象と方法

- 新潟県合同輸血療法委員会のアンケートに協力がえられた76施設を対象とした
- 各施設の赤血球製剤使用量(2019年)と不規則抗体カード普及状況の関係を調査した

# 不規則抗体保有者にカード発行するか



発行カードの内訳	
新潟県共通版	19施設
自施設で作成	6施設
輸血学会	1施設

(単位)

10000

# 不規則抗体カードを発行したことがあるか

9000

8000

7000

6000

5000

4000

3000

2000

1000

0

年間赤血球製剤使用量



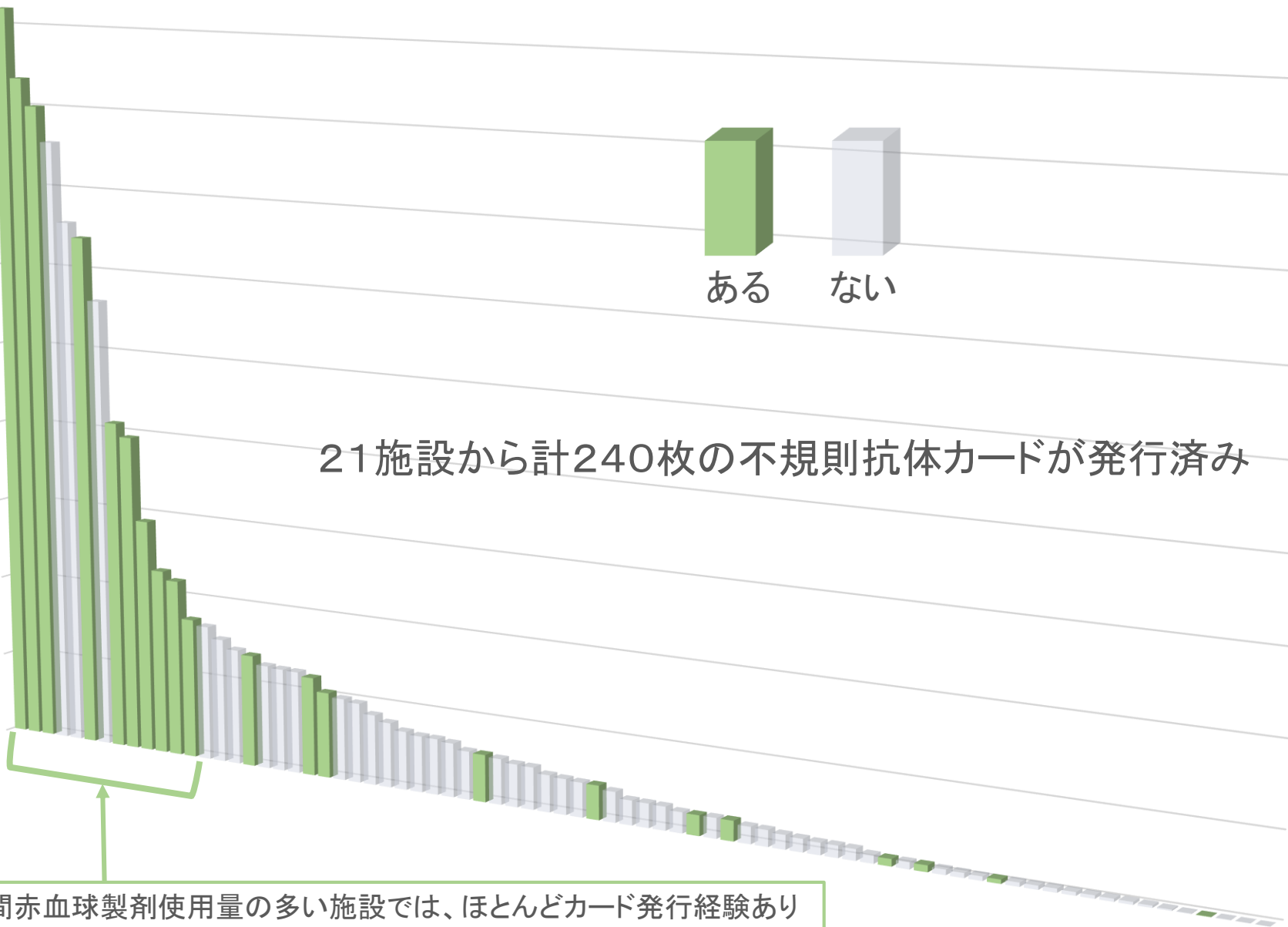
ある



ない

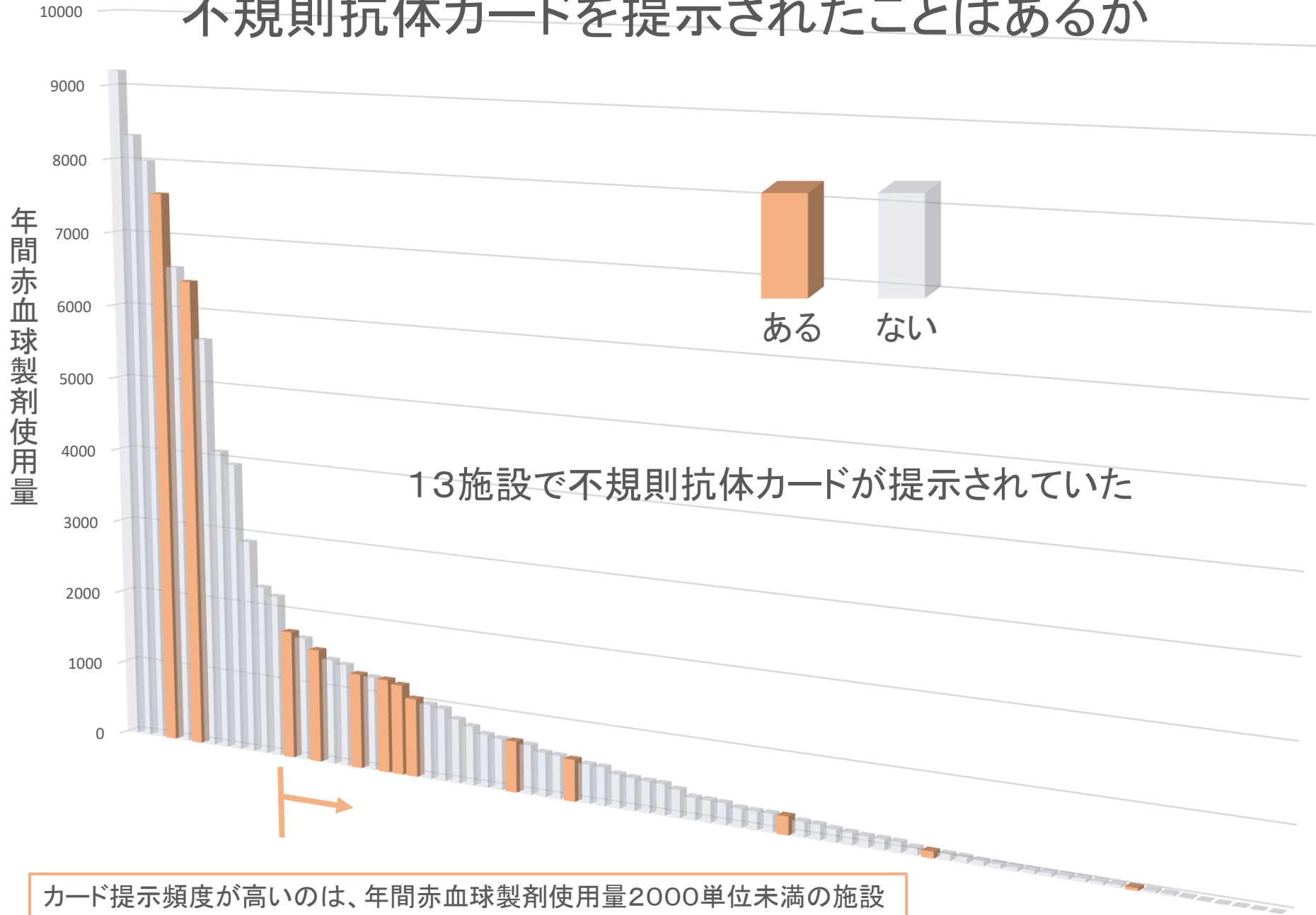
21施設から計240枚の不規則抗体カードが発行済み

年間赤血球製剤使用量の多い施設では、ほとんどカード発行経験あり



(単位)

# 不規則抗体カードを提示されたことはあるか



# カード提示の対応が決まっているか

年間赤血球製剤使用量

(単位)

10000

9000

8000

7000

6000

5000

4000

3000

2000

1000

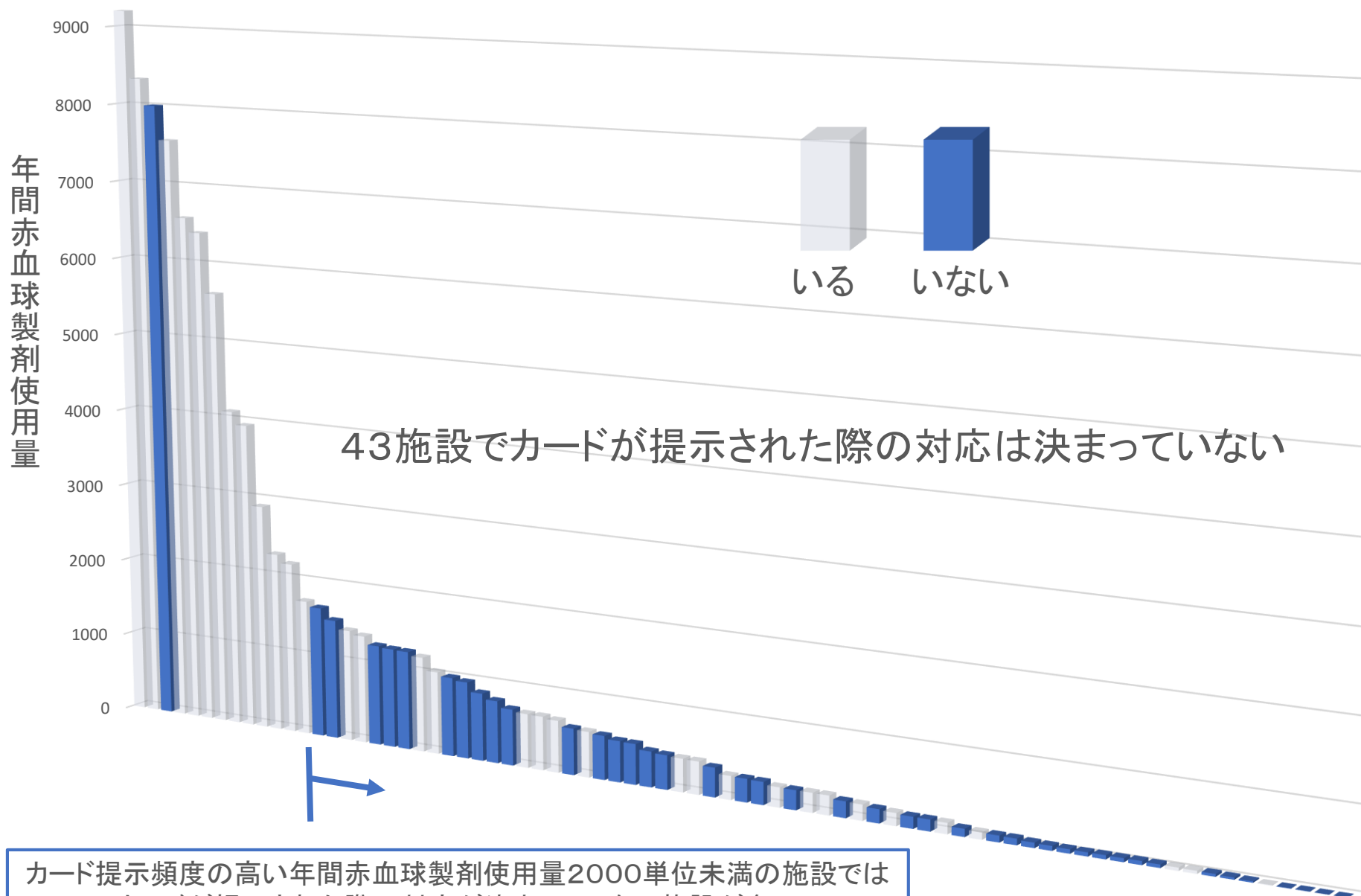
0

いる

いない

43施設でカードが提示された際の対応は決まっていない

カード提示頻度の高い年間赤血球製剤使用量2000単位未満の施設では  
カードが提示された際の対応が決まっていない施設が多い



## まとめ

- 現在、26施設で不規則抗体カードを発行しており、11施設で発行できるよう準備中である
- 240枚の不規則抗体カードが発行済である
- カードは主に年間赤血球製剤使用量2000単位未満の施設で提示されていたが、その多くは提示された際の対応が決まっていなかった



# 考察

- 不規則抗体カードの発行体制は整ってきている一方、提示された際の対応は不十分である
- 各施設でカードが提示された際、適切な血液製剤の選択ができるような体制をとれるよう、働きかけていく必要がある

# 紹介

- 県内共通版の不規則抗体カードアプリは無料
- 詳細は新潟県合同輸血療法委員会のHP



赤血球不規則抗体保有カード

- アプリとともに新潟大学版の不規則抗体カード  
運用マニュアルも同封  
(カード提示の際の対応も含む)

## 最後に

- アンケート調査に協力頂きありがとうございました
- 以下はアンケートにおける他の集計結果です

## 運用開始してよかったこと①

- 不規則抗体について医師の認識が深くなった
- 自施設で検出感度以下だったため、不規則抗体陰性となった患者さんが、他施設発行の不規則抗体カードを提示し、抗原陰性血を選択できた
- 院内の医師に不規則抗体について説明でき、輸血前検査の意味を少し理解してもらえた

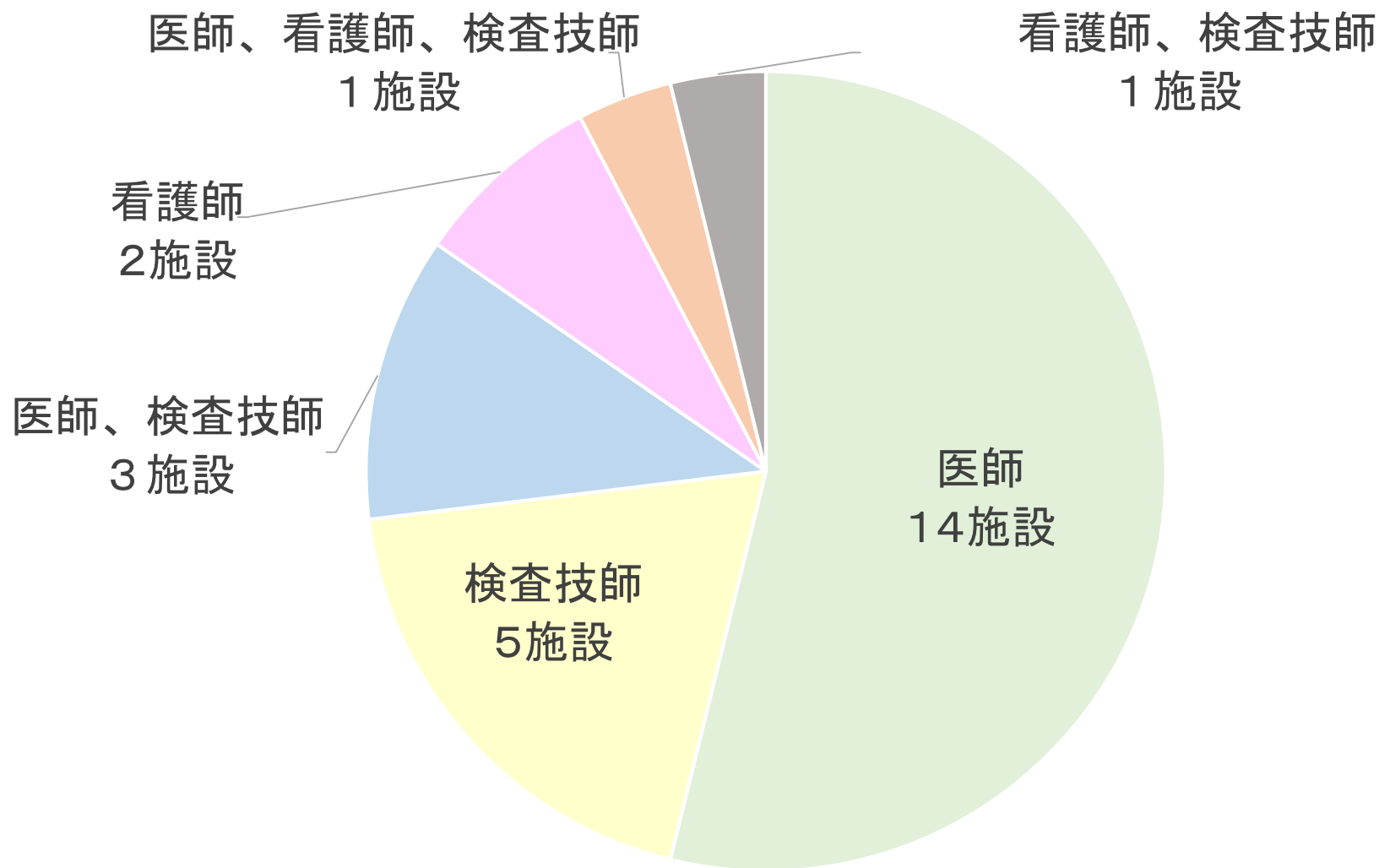
## 運用開始してよかったこと②

- 不規則抗体について知らなかったスタッフにも知ってもらえたことができた
- 他の施設と同様な対応をできるようになった
- 担当看護師にも不規則抗体の説明をするため、看護師の不規則抗体に対する理解が深まった

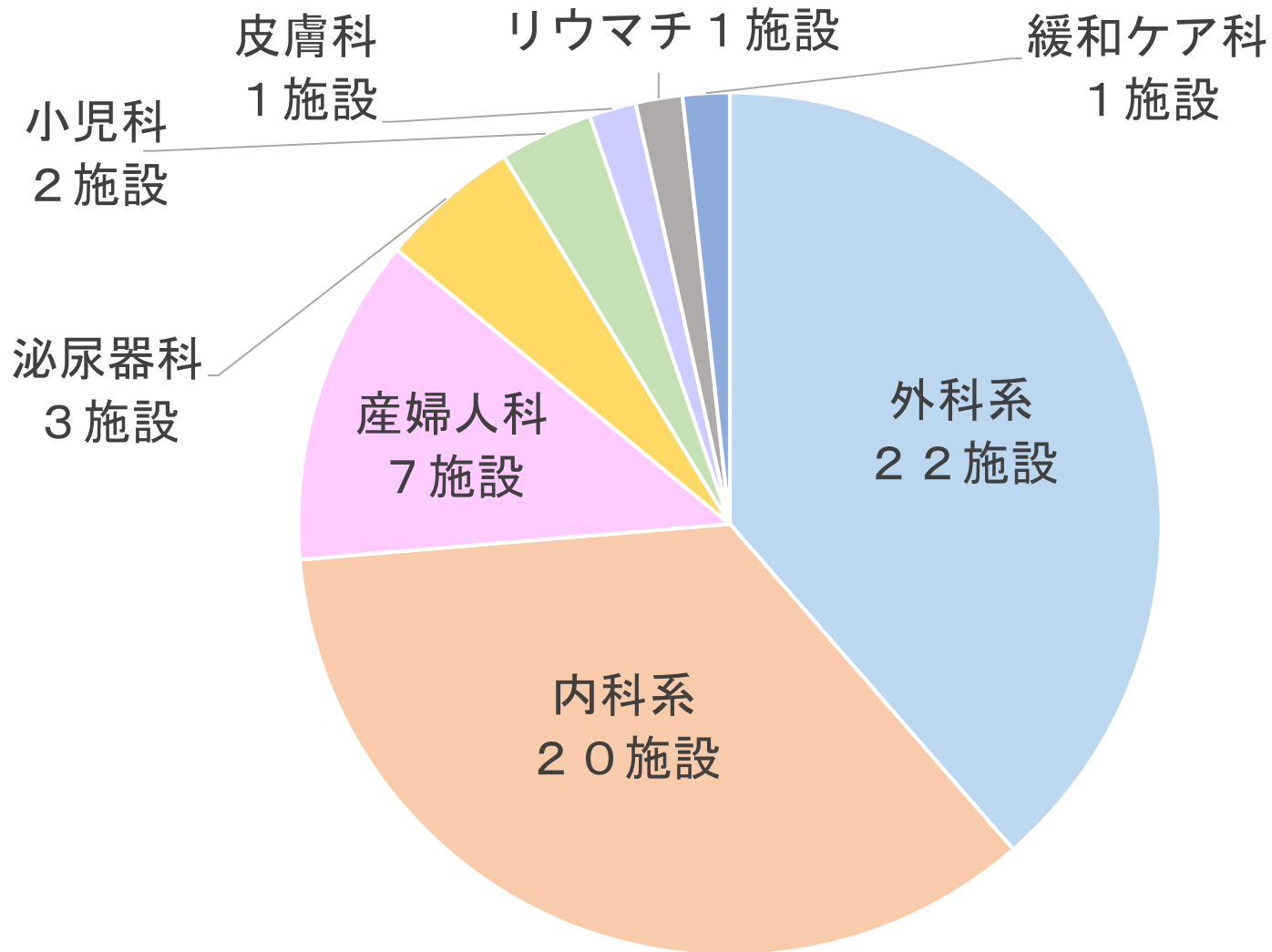
## 運用開始してよかったこと③

- 不規則抗体の情報を患者様にわかりやすく伝えることができた
- 以前は患者さんに文書でお知らせしていたが、県の基準となるカードがあることで医師にも説明がしやすい

# カード渡し時の説明職種

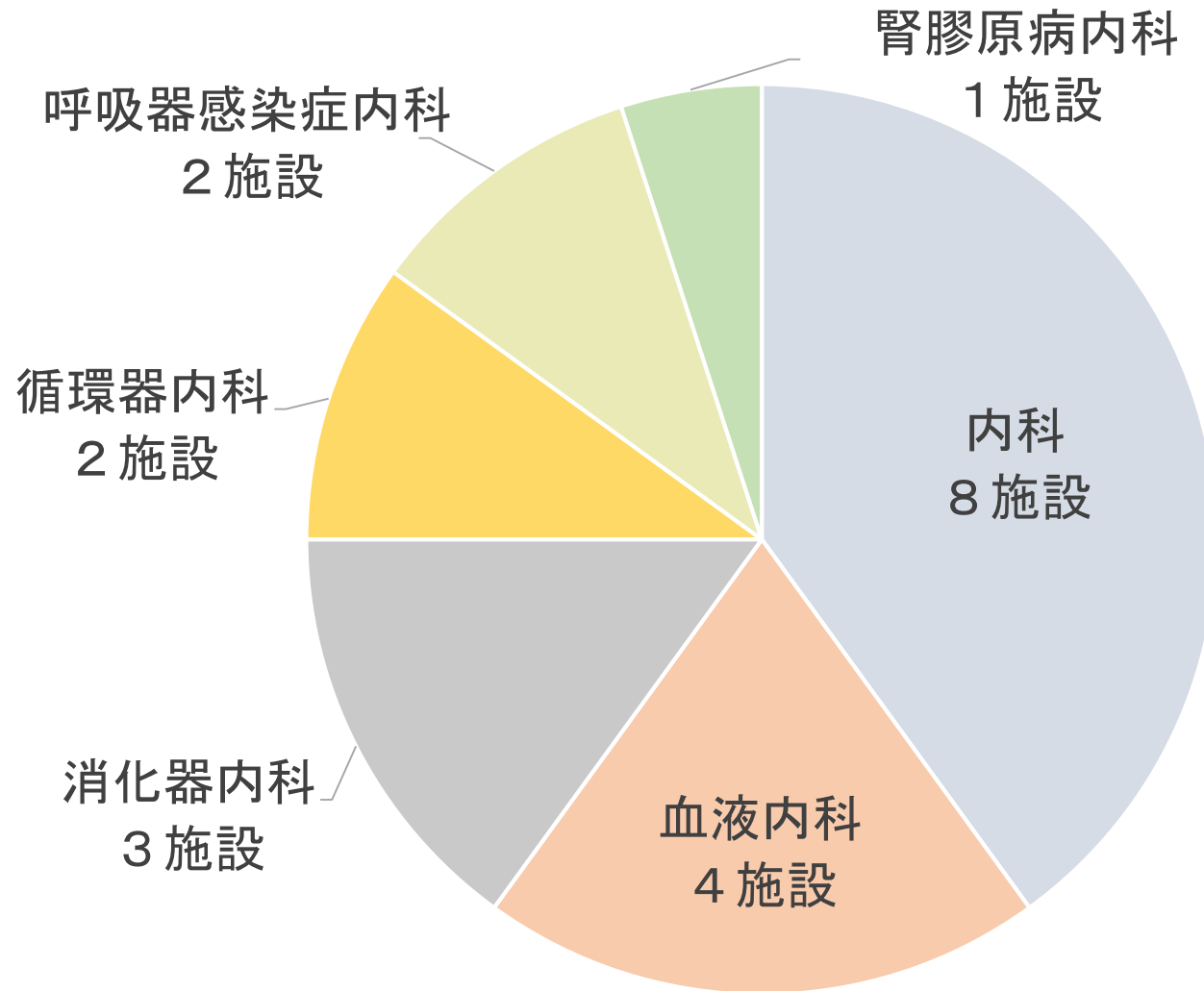


# 発行した診療科





# 内科系の内訳



# 外科系の内訳

